

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2013年11月8日

No. 7

会社：夏と同様に厳しいものにならざるえない！
組合：冗談じゃない！これまでの苦勞に真面目に答えよ！

— 2013年度 年末手当第4回交渉報告 —

中央本部は、本日10時40分から第4回年末手当交渉を行いました。会社は現時点の考え方を示しました。

- ①前回の交渉で指摘された生活給の考え方については、世間相場を調査した結果年間2.0ヵ月である。
- ②貨物会社の場合、国から700億円無利子貸付の支援を受けている以上、鉄道事業部門を黒字にしなければならない。
- ③関連事業部門も、これまで鉄道事業の赤字を埋めて黒字にしてきたが、賃料改定に伴う収入減や開発案件も無くなってきている。会社の体力のある内に鉄道事業部門を黒字にしなければならない。
- ④鉄道事業部門の黒字に向けて収入確保に全力を尽くすが、一方で経費削減にも努めていく。
- ⑤年末手当は、夏期手当と同様に厳しいものにならざるを得ない。

これに対して中央本部は、現時点の会社の考え方は許さないとした上で、以下の点について主張しました。

- ①平成13年の時にJR各社のデータと世間一般を見て会社は年間3.0ヵ月が生活給と判断した。それを変える根拠は何か。判断をした責任は重い。
- ②中間決算は黒字であり、組合員の努力の成果である。それに応えるのが会社の責務であり、夏同様に厳しいものとはならない。
- ③夏季手当の交渉経緯を踏まえて今交渉を行っているが、会社は交渉経緯を踏まえていない。よって会社の考え方は到底受け入れられない。

中央本部の指摘に対して会社は、

- ①生活給について世間の動向を意識しつつ、総合的に判断したい。一般企業はボーナスについては業績給という位置付けに変化してきている。
- ②中間決算が黒字になったことは、貴組合の協力のおかげであり感謝している。
- ③本日の交渉は、会社の考え方を示す場である。交渉経緯を踏まえて社内で検討し、回答指定日に示す。

最後に中央本部は、会社は組合が指摘した内容に対して答えていない。会社の示した考え方では到底納得できない。《回答指定日までに》再考を求めることを会社に突き付け交渉を終了しました。

組合員のみなさん！経営陣は、外部からの眼や収入未達といった外的要因を理由に「夏と同様に厳しい」と無責任な対応に終始しています。私達は発足以来最低だった夏季手当の悔しい思いと、苦しい生活環境の中で日々の業務に努め、中間決算において黒字を達成しました。今度は、会社が組合員に対して責任を果たす時です。

今日以降、山場の闘いに突入しました。全組合員が結集し、一丸となって“怒り”を会社経営陣に突き付けようではありませんか！中央本部はその最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

回答指定日は11月15日（金）です。